

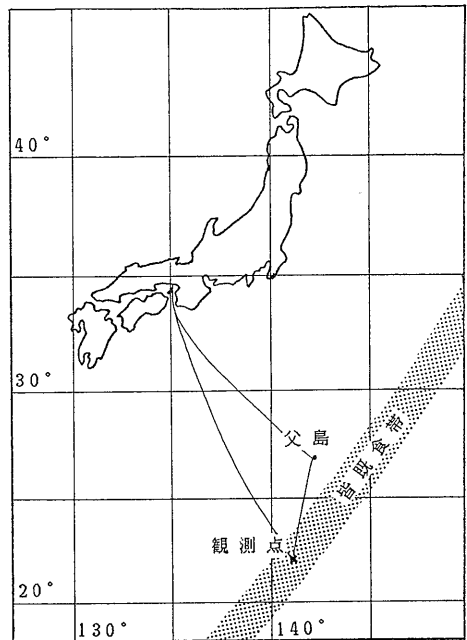
小笠原沖皆既日食

浅野将人 (重点基礎研究招聘研究員)

日本周辺では今世紀最後の皆既日食が 3月18日小笠原沖の太平洋上で見られた。今回の日食はインド洋上に始まり スマトラ島 ボルネオ島を通過し ミンダナオ島上陸後は 太平洋上を小笠原沖を抜けて アラスカ湾南方で終了した。残念ながら日本の陸地は 皆既食帯上になく パスポートなしで日食を見るには 船上か飛行機からしかなかった。結局 日本では今世紀最後の日食ということで 数隻のチャーター船で千人以上の天文ファンが小笠原沖で 日食を観測した。

私が乗船した「さんふらわあ7」(8000トン)は15日夜神戸港を出航した。途中 父島に上陸した。父島は無人岩 (Boninite) と珊瑚の島である。海岸にはメノウやウグイス砂 (古銅輝石の集積した砂) それに珊瑚や貝のかげらが散在していた。

北回帰線を越え 18日早朝皆既食帯に入った。部分日食は9時42分から始まった。食分0.75 太陽の75%が月に隠されたころ 雲間の青空から金星が見えてきた。食分0.95 まわりの風景は 青黒くなり 船上は緊張感に包まれた。そして11時1分 白い太陽は消え 暗色の空には暗黒の太陽が 白い炎に包まれていた。その瞬間 船上にはどこからともなく歓声とカメラのシャッター音が響いた。日本周辺での次回の皆既日食は2009年 また小笠原沖で。



船の航路と皆既食帯

我々の乗船した船は 3月15日夜神戸港を出航した。父島には 17日朝に着きその夜皆既食帯に向った。観測点 (北緯22°15' 東経 141°2')には18日早朝着きそこで皆既食を迎えた。食後はすぐ帰路につき20日夜神戸港にもどった。



日食メガネで部分食を見る人たち



船上に並ぶ小型望遠鏡や双眼鏡

皆既日食を見るには低倍率で充分なので 口径数 cm の望遠鏡や双眼鏡が有用である。(写真提供 戸松利恵)